

世帯と人口

(1月1日現在)

世帯	46,200	(+102)
人口	122,039人	(+223)
男	62,155人	(+123)
女	59,884人	(+100)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

食卓を彩るトマトを手に思わず笑みがこぼれます



えびな模様

色よし 味よし エコ野菜

「おいしそう!」思わず口を出た言葉が、買い物客の注目を集めました。真っ赤に色づき、つやのあるトマトは、最近JA海老名市グリーンセンターで注目されている「えびなエコ野菜」です。

生ごみリサイクルの副産物

この野菜は、市民らで構成するえびな環境市民会議(井上高保会長・112人)と市が一体となって推進している「地域循環モデル事業」から生まれたもので、家庭から排出された生ごみからたい肥を作り、そのたい肥を使って育てた野菜を販売して、リサイクルの輪を形成することを目的としています。

市では、平成23年度までの実現を目標に「ごみ50%減量」を進めています。従来の分別の徹底に加え、「地域循環モデル事業」のような新たな方策が必要になっていることも事実です。つまり、エコ野菜はごみの分別・資源化の副産物であるともいえるのです。

去年の11月21日から2週間、モデル地区の家庭、約600世帯の協力で生ごみ分別実験が行われ、2・5トを超える生ごみから約1トのたい肥が作られました。このたい肥は協力農家のもとでトマトやキュウリの栽培に使われています。そして、これらの野菜は、えびなエコ野菜として店頭に並び目まで大切に育てられています。

購入に来た方からは「市内で取れた新鮮な野菜を目当てにグリーンセンターにはたびたび買い物に来ます。私たちのごみからできたたい肥を肥料に使った野菜は大変興味深いですね」。また「ごみ問題を解決する手段の一つになると思います。有機農法みたいで素敵ですね」などの評判も聞かれました。

同市民会議のメンバー赤崎豊さんは、「リサイクルは絶えず循環しなければいけません。今回の事業では、食物としてみなさんの家庭で消費して初めて成立します。ぜひ一度食べて、そしてリピーターになってください。出来上がったリサイクルの輪をもっと大きくするのは、私たち市民です」といいます。

まだ生産量が少なく、入手できないときもあるようですが、私たちもまた、自然界でリサイクルの一部を担っているということが味わえるエコ野菜が普及したとき、海老名はさらに環境に優しいまちになっているのかもしれない。